NARUTO UNIVERSITY OF EDUCATION POST OFFICE

No.73

2016.March

今号の内容

サラバ 田中学長退職メッセージ

学園を巣立つ前に

教育の路のスタートラインに立って

みんなちがって,みんな最高!!! 体育科!!

情報基盤センターから ～センターの様々な取り組みのご紹介～

こんにちは附属です

あふれる思いを形に 附属中ART部から

最高のスタート 附属幼稚園から

健康手帳

ストレスと心身症

退職にあたって

楽しくなってきたところで退職

旅芸人,何処へ

ほか

学園だより

GAKUENDAYORI

学園だより No.73

CONTENTS

2016.3

サラバ	学　長	田中　雄三	2
「ラーニング・コモンズ」の設置について	理事・副学長	西園　芳信	3
学園を巣立つ前に			4
教育のスタートラインに立って	学校教育実践コース	鈴木　崇弘	
４年間を終えて	理科教育コース	田中　　聡	
みんなちがって，みんな最高！！！体育科！！	体育科教育コース	大西　杏奈	
個性に感謝	人間形成コース	大町弦一郎	
ありがとう鳴門教育大学	言語系コース（国語）	折井　茂太	
反面教師像	芸術系コース（美術）	栗田　功一	
私の愛した国際教育コース	国際教育コース	池上　宗仲	
鳴門教育大学で得たもの	教員養成特別コース	野崎　雅敬	
退職にあたって			12
Fare thee well!	言語系コース（国語）　教授	小野由美子	
旅芸人，何処へ	現代教育課題総合コース　教授	小西　正雄	
大学の塀の中で47年	国際教育コース　教授	近森　憲助	
鳴門教育大学とのあゆみ	自然系コース（数学）　教授	成川　公昭	
教育のふるさと，ここは	芸術系コース（音楽）　教授	松岡　貴史	
楽しくなってきたところで退職	生活・健康系コース（保健体育）教授	吉本佐雅子	
定年を迎えて	学生課長	溝下　洋和	
附属図書館における「特別展示会」の開催	附属図書館事務室　事務室長兼主幹	吉田　敬治	
鳴門リレーマラソン			16
	第１回鳴門リレーマラソン大会実行委員会会長 鳴門教育大学　理事・副学長	黒川　丈朗	
国際交流			20
第６回日中教師教育学術研究集会	第６回日中教師教育学術研究集会実行委員長 （国際交流担当副学長）	近森　憲助	
不思議な四国－外国人留学生学外研修に参加して－	学校教育研究科	陸　　建超	
こんにちは附属です			24
最高のスタート	附属幼稚園	川端　大樹	
140周年記念総合遊具	附属小学校	久次米昌敏	
あふれる思いを形に　ＡＲＴ部	附属中学校	岩佐　宣之	
生活単元学習「思い出コラージュを作ろう」に思う	附属特別支援学校	梶河　智江	
先輩からのメッセージ			26
教師１年目	浜松市立北浜東部中学校　教諭	川合　良幸	
学生会・院生会だより			27
本年度を振り返って	学生会長	知花　泰斗	
次の院生会へ	院生会長	阪下　健太	
課外活動～サークル紹介～			28
男子バスケットボール部	男子バスケットボール部	町田　哲郎	
児童文化研究会	児童文化研究会	大西　志帆	
イベントを通じて深まる絆	女子バスケットボール部	岡本　　悠	
PLUS1の活動について	PLUS1		
情報基盤センターよりお知らせ			30
健康手帳　「ストレスと心身症」			32
図書館だより			33
学生表彰			34
行事予定・編集後記			35

表紙デザイン／芸術系コース（美術）准教授　内藤　隆（芸術・健康系教育部）　　表紙題字／初代学長　前田嘉明

サ　ラ　バ

◆　鳴門教育大学長　田　中　雄　三

春は日本では別れの季節である。同時に新しい出発の季節でもある。寂しいけれど希望もある季節である。

さて，別れの不安や寂しさはどこからくるのか。人間が最初に体験する不安は分離不安，つまり別れの不安である。別れの不安のオリジンは，次のように説明されている。

「子どもが依存対象である母親（またはその代理人物）から引き離されるときに示す不安であり，フロイトが最初に提唱した。マーラー（Mahler,M.S.,1897-1987）は子どもの自律の過程を分離－個体化separation-individuationとしてとらえた。子どもは生後6か月から3歳までに母との共生関係から徐々に独立した存在であるという意識を持つようになる。これを分離－個体化というが，依存対象から分離するときに感じる不安が分離不安である。生後20か月頃に，子どもは，自律と依存の葛藤をめぐって母親に対して甘えてみたり，反抗してみたりして，矛盾した態度を示す。これを再接近期といい，この時期における母親の情緒的応答が重要な意味を持つ。子どもに対する母親の安定した愛情の供給が，「見捨てられ感情」の体験を免れさせ，子どもの自立を促すことになる。」（註1）

3月は，上述の乳幼児期の分離不安が賦活される時期である。卒業，就職，転勤，引越しなどの環境要因によって，それまでの対人関係を失い，新しい対人関係をつくらなければならなくなる。大変なエネルギーが必要だ。別れの季節の一番のダメージは対象喪失にある。「見捨てられ感情」の再燃にある。しかし，多くの人々は分離不安をスムーズに乗り越えている。それをベースにして，人生のその後に生じる別離を乗り越えている。大方は，見捨てられ感情を味わわなくてすむ。

さて，私は医師や教員という職業に就いていたので，子どもから老人に至るまで随分幅広く多くの人々にお会いすることが出来た。年齢不問，性別不問であり，出会った人達と生老病死についてあれこれ話してきた。そして別れてきた。まさに会者定離である。医師や教員にとっては，出会って別れることが仕事の達成なのだ。寂しいけれど次に出会う人達が待っている。

私はそろそろ林住期から遊行期に入る時期である。（註2）又会えるということが分かっていれば淋しくはない。むしろ楽しみになる。

それでは，これまで出会った全ての諸君，終わりは次の始まりである。サラバ。（註3）

（註1）森谷寛之・田中雄三共編：生徒指導と心の教育（入門編）．2000年，培風館，45頁より引用

（註2）ヒンズー教の教えでは，人生を4つの時期に分け，各時期の目的を定めている。

第3期の林住期においては，世俗的な結びつきから解放されて自由な存在となり，第4期の遊行期においては，隠者として思索の生活を送るように定められている。

（註3）西加奈子：サラバ．2014年，小学館，第152回直木賞受賞

「ラーニング・コモンズ」の設置について

◆ 理事・副学長　西　園　芳　信

ここでは，図書館長としての仕事，「ラーニング・コモンズ」設置について報告します。現在，大学の附属図書館に新しい学習空間として「ラーニング・コモンズ」が設置されつつあります。これは，学生が会話しながら，みんなと一緒に学ぶ場のことをいいます。このような学習空間を設けることの背景には，学習は一人で静かにするよりも仲間と一緒に会話しながらする方が効果的であるという学習観の変化があります。

鳴門教育大学にもこのような趣旨の「ラーニング・コモンズ」が設置されました。当初は，図書館の中に設置を計画していましたが，充分なスペースが確保できないことから，図書館にも近く，また，大学の各建物の中心にある元就職支援室となっていたところにそれが作られました。その特徴を3つ挙げてみます。

第1に，学習空間が「模擬授業エリア」と「グループ学習エリア」から成っていることです。「模擬授業エリア」は，小学校の教室をそのまま再現したもので，小学生や中学生を想定し，学生が模擬授業をすることを目的に作られています。このことから，小学校と同じ高さの黒板の他，机・椅子が備えてあります。また，電子黒板も備えてあり，デジタル教科書で授業もできます。

「グループ学習エリア」は，学生が少人数で学習できることを目的に作られています。そのため，組み合わせ・配置が自由な机と黒板を備えています。その他，プロジェクターにノートパソコンを繋ぐと仲間にプレゼンテーションを行うことができます。

第2に，「ラーニング・コモンズ」が設置された場所が大学全体の建物の中心にあることです。鳴門教育大学の各建物は，図書館を中心に馬蹄形のように配置されています。これは，各棟の学生・教員が知の集積場所である図書館を中心に繋がっているという，正に大学の役割である知の継承と創造を実現することをねらいとして設計されたものと思います。この図書館近くに「模擬授業エリア」と「グループ学習エリア」を備えた「ラーニング・コモンズ」が設置されたことは，教員養成大学の目的である教育に関する理論知を実践に生きる形にする実験の場所ができたものと評価できます。

第3に，このような小学校の教室を再現して，廊下から学生の模擬授業の状況を見られるようにした施設は，教育系国立大学で鳴門教育大学が最初であることです。

多くの学生がこの実験場を活用し，教師に求められる実践的指導力を身につけて欲しいと期待します。

学園を巣立つ前に

教育のスタートラインに立って

◆ 学校教育学部　学校教育実践コース　鈴　木　崇　弘

鳴門の地で過ごした4年間は，今振り返ると，とてつもなく喜怒哀楽が詰まった4年間でした。部活に，サークル，アルバイト，初めての一人暮らし，初めて出会う故郷の違う友人。たくさんの初めてとの出会いや高校生の時までとは違う環境で，対人関係や働くということなどについて本当に多くの大切なことを学び，経験しました。それらは，教師を目指す上でも通じるものがありました。過ごした時間の中で，戸惑い，悩み，時には，怒りをぶつけ，悔し涙を流した時もありましたが，お腹を抱えて笑い，心から喜び，楽しみ，沢山たくさん思い出ができました。

そして，教師を目指す自分が，教育について，子どもたちについて，さらに自分自身について向き合うそんな4年間であったとも思います。鳴門教育大学での学びは，私が教師を目指す上で貴重な変化をもたらしました。

小学校の頃から，教師の仕事に憧れを持つようになり，この道を選択して，鳴門教育大学に入学してきた訳ですが，今思うと当時の自分はとても漠然とした動機や考えしか持てていませんでした。「人の役に立つ仕事に就きたい。担任の先生みたいに子どもたちに寄り添い，子どもたちを励まし，子どもたちが学校を楽しいと思えるようしたい。」なんて，一著前なことを考え，「こんな授業したら楽しいかもしれない。こんな説明したら，分かりやすいかな。」ということを考えるのが好きな時期もありました。けれども，考えるのはいつも自分が児童・生徒として知っている極一部分のことばかりで，一度も教師という仕事がどんな仕事か，子どもを教育するとはどんなことか，よい学級を作るには何をするのか，子どもを理解したり，やる気にしたり，伝えたいことを理解してもらったりするには，どうしたらいいかなんて深く追究し，考えたことは一度もありませんでした。うわべだけの言葉で分かっているつもりになっていました。

しかし，大学の講義で理想の教師像，よい授業について，どんな学級を作り，どんな子どもを育てたいかを考えたり，主免，副免，インターン教育実習で実際に子どもたちを目の前にして授業実践をしたり，関わり，指導したりして，教師という仕事がいかに難しいかという現実を知りました。子どもたちに何を求め，そのために自分はどんな意図や信念をもって，それが伝わるようにどのような態度で臨み，どんな伝え方をしなければいけないか答えを探しては，よく迷いました。また，教材研究にも児童理解にも同じようになぜやどのようにしての答えを追い求める毎日でした。考え方ひとつで零にも十にもなる世界を感じました。結局答えらしきものも見つからないまま，葛藤が続きました。思考停止することもよくありました。けれども，その重要性には気付き，やりがいを感じました。少しずつ本当に少しずつ答えらしきものをつかむようになっているであろうと思います。

大学卒業を目前にして，「もっとこんなこと考えていればよかった。こんなことに挑戦したらよかった。」などという後悔もたくさんあります。在学中，漠然と勉強するのは大事だとは，分かっていましたが，してきませんでした。“なぜ”を求めて学習・研究するのが大切だと今になって気づきます。これを読んでいる人は，「そんなこともっと早く気づけよ。」なんて呆れ，笑われるかもしれません。大学を卒業する頃には，自然とまともな人間になっているだろうという完璧な甘えでした。まだまだ未熟者です。成人として，できなければいけないこと，知っておかなければいけないこと，足りない部分が山ほどであります。当然，大学から卒業し，社会に出て，苦労すると思います。だからこそ，私を成長させてくれた方々に感謝して，今までの学び，気づき，経験を忘れず，大切に，これからの糧として，“学び続ける教師”の本当の意味を理解し，これから教育のスタートラインに立って，その道を全うできるよう精進していきます。

学園を巣立つ前に

4年間を終えて

◆　学校教育学部　理科教育コース　田　中　　聡

4年間，この大学で様々なものを学び，考え，そして気づかされました。コースの同級生11人だけではなく，授業で知り合った様々な院生，教授陣，先輩や後輩，地域の人，趣味であるカードの相手になってくれた方々といった様々な人に支えられた4年間でした。時には助けてもらい，時には迷惑をかけ，そうやっていろんな方々に助けられた4年間であったとも思います。

3年生や4年生での教育実習では自分の浅はかさ・課題が浮き彫りになりそれをどのように解決するか，自分の中でもがいてきたつもりです。「どうすればわかりやすく伝えられるだろうか？」「このような場面、自分ならどうするのか？」といったことを考えてきました。教員になればもっとさまざまなことに直面していくでしょう。その時の考える糧をこの4年間で手に入れたと思います（もっとも、これからも手に入れることになるかと思いますが…）。

そして，勉学に追われていた高校3年間や，それまで自分の振り返りといったことをする機会がなかった中学生以前と違って，「自分とは何か」じっくり考えることができました。「自分は教員になって，何がしたいのだ？」「今自分は何ができないのか？何ができるのか？」「自分にとって教育とは如何にあるべきで，その為に何ができるのか？」といったことに向き合うこともできました。もし，高校卒業後にすぐに働き出すといった環境に自分があったならば，こういった自問もなかったことでしょう。さらに言えば，この大学だからこそ自分を見つめなおすことができたのだと思います。

少しネガティブなことをあえて述べるとすれば，自分の周りにぽつぽつと「ほんとはここに来たくなかった」という声を聴きます。家族の中にも，ここをレベルの低い大学と捉えている人がいます。とんでもない！ここには人のぬくもりがあります。学べることも高度だと思います。そして，貴重な経験が自分はできました。こんなに素晴らしい大学は，世界広しといえどもこの鳴教くらいではないでしょうか。

自分は卒業後，再び採用試験を受けます。ひょっとしたら臨時で教壇に立っているのかもしれませんし，パートをしながら試験勉強をしているのかもしれません。いずれにせよ，４年間で学んだことや経験したことは無駄ではありません。有益なことばかりです。これらの経験や知識を活かして，これからの生活を送っていこうと思います。

学園を巣立つ前に

みんなちがって，みんな最高！！！体育科！！

◆　学校教育学部　体育科教育コース　大　西　杏　奈

西　　一気（プーさん）
浅香　凌介（新おにい）
林亜　佑美（野生児）
山内　春奈（珍獣ハンター）
木口　成平（じゃがいも）
川西　　徹（ＨＪの貴公子）

谷口　亜依（ブルマ）
矢島　良樹（PAPA☆）
大西　杏奈（☆MAMA）
徳永綜一郎（お徳）
宮川　智義（養子）

色気づくな，いつも直球で行こうぜ。真面目なバレーバカ

ライザップのような劇的な変化を遂げたい。匿名希望

白くて柔らかいお肉が欲しい。ミス・フライデー

地味に動いてました。名ばかりのガンジー

ペイス×８サブマリン投法よりもノールック投法だろ，やっぱり

４年前，実家を離れて新しい環境に飛び込む期待と不安が私を襲う，そんな大学生活のスタートでした。しかし，学校に行ってみると素敵な仲間に出会いました！･･･なんて流れが，通常の展開だと思いますよね。普通と違うのが，体育科なんです。出会ったばかりのころは，まさに十人十色で，個性的な濃いメンバーの集まりでした。誰もが何かの引き金を引いて，もめ事やいざこざが起こっては，ひとつひとつみんなで乗り越えていく･･･そんな始まりでした。しかし，だからこそ，過ごす時間が増えていくごとに，みんながみんなのことを深く大きく理解することができたのだと思います。別のことをしていても，違う集団にいても，いつでも帰ってこれる。知らないうちに，体育科は家族のような関係になれたと感じています。

授業，実習，体育祭，学祭，鍋会，飲み会，同じ行事でも，学年が違えば取り組む内容も気持ちも違います。少しずつ互いに成長して，時には真面目に，時にはおちゃらけて，支え合い，励まし合い，ついに卒業を迎えました。まるで本当の家族のような関係が築けたこの仲間たちを一生大切にしたいと思います。最後になりましたが，私たちを叱り見守ってくださった先生方，職員の皆さん，たくさんご迷惑をおかけしましたが，これから自分の足でしっかりと人生を歩んでいきます。ありがとうございました。

見た目はゴツゴツ。中身はアツアツ。その名はメークイン

ツッコミ is my life 世の中よ，ボケたまえ。牛刀持ちのＤＤ

そろそろ男も捕獲したい。珍獣ハンターイモト

甘えた生き方から卒業します。谷口メンディー

磯野家でいえば，フネさんでありたい。体育科の菜々緒

学園を巣立つ前に

個性に感謝

◆　学校教育研究科　人間形成コース　**大　町　弦一郎**

大学院での２年間，数多くの方々にお世話になりました。今，大学院での一つひとつの思い出が思い返される中で，感謝の気持ちが湧くばかりです。

大学院の授業では，専門的な内容に対しての考察や発表の準備に頭をひねることが多く，特に，その状況をともに分かち合ってくれた同い年の二人に，感謝の思いでいっぱいです。また，教育認知心理学研究室に所属した私は，「尺度って何なのだろう」というように研究においても始めの段階から戸惑うばかりでした。しかしながら，ゼミの俳句会等を通して交流が深められ，戸惑いが和らぎました。そして，漠然と持っていた「誰かの役に立つような論文を書きたい」という思いは２年間変わらなかったため，修士論文が完成した際は，研究を続けてきて本当に良かったという思いが込み上げてきました。指導教員のご指導を初め，同期の方々の助言や支えのおかげにより，最後まで辿り着くことができたと感じています。本当にありがとうございます。

本学では，様々な立場の人たちと出会うことができました。学部生と大学院生（２年間履修生と３年間履修生）がいて，日本各地あるいは海外から来られた学生さんがいて，社会を経験して来られた学生さんや，お父さんやお母さんである学生さんがいて，日々の会話の内容が広がるとともに人生に対する視野が広がりました。そして，皆それぞれ自分の個性を持ち，それが私の目には魅力的に映ることが多かったです。私には，高校時代に自暴自棄になってしまった経験があります。その高校時代に，あるクラスメートから「キミ，変わっとる」と言われました。初めて言われたこの言葉をきっかけに「俺，変わってるかも」と思えるようになり，知らないうちに人に対しての批判が過剰になっていた自分に気づかせてくれました。段々と，自分自身と人の個性を大切に考えるようになっていきました。私にとってその友達は，今もかけがえのない存在です。

そして，本学でのある人との出会いが思い出されます。その方は私と同じゼミの学生であり，長年，教育現場で働かれていた方です。常に人々の心身の健康に心を配り，惜しむことなく愛情を注いでくださる方でした。私も含め，その方の個性に救われた人は数知れないと思います。本当にありがとうございました。

今，鳴門教育大学大学院に入学して本当に良かったと感じています。ここで出会えた方々の個性に感謝し，また，あらゆる立場の方々の教訓を学ばせて頂けたことに感謝をし，これからの人生を歩んでいこうと思います。ありがとうございました。

学園を巣立つ前に

ありがとう鳴門教育大学

◆　学校教育研究科　言語系コース（国語）　折　井　茂　太

「何だ？この田舎は」ここに来た者はしばしばこのような思いにとらわれることと思います。周りに何もない，人もいない，車がなければ，島から出ることすら一苦労というこの環境であるから無理もないことです。さらに，ここは夏暑く，秋冬寒いです。春は春とて春風が吹き荒れ，桜の花びらを掻っ攫っていきます。春風と書いたが，そんな穏やかなものではなく，もはや暴風の域であります。さらにこの風は春だけではなく一年中吹きます。ただし，夏はまったくの無風です。なんとまぁ融通がきかないこと。

そんな環境の中にあるここ鳴門教育大学に私は学部，院とあわせて6年間もいました。こんなところは飽き飽きだと思っていた私でしたが，いざ去る時が来ると，やはり寂しいものです。どんなにここが好きだったのかを今更ながらしみじみと感じます。私にとってここはもはや第二の故郷です。思い返すと，ここに来てから，本当にたくさんの人と出会いました。喧嘩することもあったけれど，共に切磋琢磨し笑い合った友人達，私に様々なことを教えて下さった先輩方，暖かく時に厳しく見守ってくださった先生方。この出会いが私を成長させてくれました。出会う人間は選ぶことはできません。そんな中で，私はなんと幸せだったのだろう。これほど恵まれた環境はもうきっと一生ないことと思います。

しかしながら，いつまでもここにはいられません。修了の日はもう目前に迫っています。この愛すべきこの田舎から巣立つ日はもうあと幾ばくもありません。成長の機会とたくさんの出会いをくれたこの鳴門教育大学に恥じない誇りを持った社会人になります。

最後になりましたが，この六年間を支えて下さったみなさん本当にお世話になりました。ありがとうございました。

学園を巣立つ前に

反面教師像

◆　学校教育研究科　芸術系コース（美術）　栗　田　功　一

小学生の時。ある日の掃除の時間，私はいつもと同じように掃除していた。同じ班のAくんが遊んでばかりで掃除をきちんとしていないのを私は注意した。それでもAくんは遊ぶのを止めず，ほうきを振り回しながら掃除場所から逃げようとする。私はAくんをつかまえようと追いかけた。すると

「おい！いつまで遊んでんだよー！」

という先生の怒鳴り声。結局，二人一緒に怒られた。遊んでいたAくんを注意しようとしただけだと言おうとしたが，わたしが口を開くと

「言い訳するな！」

とまた怒られた。

私が中学2年のある日の授業中。友だちのBくんがいきなり

「あー！おい！誰だよ，あれ書いたのー。」

と黒板を指差して大声をあげた。Bくんの指差す黒板の端を見ると，そこにはBくんの悪口が書かれていた。黒板に書かれたその悪口をチラリと見た先生は

「Bくんうるさい！今は授業中なんだから，静かにしなさい。」

と悪口を書かれたBくんを注意した。それに疑問を感じた私は先生にこう言った。

「確かに授業中騒がしくするのは良くないけど，それなら黒板に人の悪口を書いた人も注意しないといけないんじゃないですか？」

その日の昼休み，私は職員室に呼ばれて何故か先生方からお説教をいただいた。

中学3年のある月曜日。私が友だちに誘われる形でパソコン部に入部したての頃だった。学校のパソコンルームのパソコンが1台紛失するという事件が起きた。そのことを顧問の先生より知らされた直後，私は顧問の先生と教頭先生に呼ばれ生徒指導室に行った。

「栗田くん，私は君が今回の事件についてなにか知っているんじゃないかと思っています。」

と言われた。そんなこと言われても私は本当になにも知らなかった。

私は学校の先生が嫌いだった。こちらの話をきちんと聞いてくれない。正当な理由もなく悪いことをしたと疑ってくる。子どもには遅刻するなと言いながら授業開始のチャイムには遅れてくる。謝らない。時には頭やお腹を殴られたこともあった。そんな時，いつも思っていたことがある。

「自分が先生だったら，絶対こんなことはしない！」

理想や憧れの教師像を持つことは非常に大切だ。あの先生みたいになりたい，こういう先生になりたい。しかし，それだけではなく，こんな先生にはなりたくないと，強く思うことも大事なのではないだろうか。と，私は思う。

学園を巣立つ前に

私の愛した国際教育コース

◆ 学校教育研究科　国際教育コース　池　上　宗　仲

私にとって国際教育コースの大学院生として過ごした3年間は夢が現実となる日々の連続でした。アジアやアフリカから来ている留学生たちと共に「教育」をキーワードに語り合い学ぶという環境は他大学院でもあまり類を見ない空間です。そのような場所に集まる同僚たちや4人の先生方たちは予想通り強烈な個性を持つ人ばかりでした。「しまむら」や「業務スーパー」が生活の合言葉になっている留学生たち，反対されるどころか何故かほぼ全員自慢の料理を持ってくる国際教育伝統の「持ち寄りパーティー」，日本にいてもアフリカにいてもまた如何なる状況下でも「まああとは臨機応変に」が口癖の先生たち。「国際さんの場合これってどうなるんでしたっけ」「あっ国際教育は例外だった」などとよく学生課・教務課の方々に言われる様に，歴代の院生数こそ少ないものの，その語り継がれる伝説の数は鳴門教育大学でも群を抜くコースでしょう。そんな破天荒なコースで学び触れたすべての事は私のこれからの人生の助けとなっていくと確信しています。

そんな素敵なコースに入学する前の私はさまざまな「できたらいいな」を抱いていました。アジアやアフリカの国に行けたらいいな，学会発表できたらいいな，子どもたちとアジアやアフリカの人々を繋げることができたらいいな，そんなことを思い描きこの鳴門の地に来ました。色々な場所で過ごしたことがありますが，「渡船を使って買い物をしにいく」，「自転車で自動車が走る橋を渡る」，そして「警報が出るレベルの風速がいつも通りの風」など，この鳴門の環境は明日からでも使える話のネタの宝庫です。最初はその環境下で自身の夢が叶えられるか想像出来ませんでしたが，その心配は先生方や同僚を目の当たりにしてすぐ消え去りました。少しでも可能性を感じたら実現可能になる，そんなパワーが国際教育コースには充満していると思います。さまざまな人々との関わりの中でその力を実感することがあり，結論から言えば私の抱いた「できたらいいな」という夢は全て現実となりました。フィリピンとルワンダを訪れることができ，その両方は私の修士研究へと繋がりました。その時の経験を学会で発表する機会もあり，そうした体験を見ていた先生たちからJICA研修員や留学生と徳島の子どもたちを結ぶ異文化交流の際に通訳として活動する場も与えてもらえました。修了する頃には大学時代の同期は既に社会人3年目，そんなことを気にするような時間は一切なく，私の3年間はドラマチックに過ぎていったと思います。

これからは国際教育コースで得た，時にまじめで時に面白いリアルな「国際理解」の知識と体験を一人でも多くの人々に伝えていくのが自身の使命だと感じています。また，今後は先生として，留学生や国際教育コースに研修に来られるアジアやアフリカの先生たちと自身の生徒たちを繋ぐ架け橋となっていきたいと思います。それが私の次の「できたらいいな」です。これも我が親愛なるコースの謎のパワーとともに実現していくのではないかなと思います。

ソフトボール大会にて

ルワンダにて

学園を巣立つ前に

鳴門教育大学で得たもの

◆　学校教育研究科　教員養成特別コース　**野　崎　雅　敬**

私は鳴門教育大学大学院に入学してよかった。その理由をいくつか挙げる。

①手厚い教授たちのサポート体制

教員養成特別コースでは学生一人に対して主のゼミ担当の先生が一人ついている。悩みも研究の方向性もすべて教授の先生が受け止めてくださった。そのため２年間の学びが充実したものになった。私は学部時代を他の教育大学で過ごしてきたがそのときは学生８人に教授が１人だったためほとんど関わりがなかった。そのことと比べても教員養成特別コースの手厚さを感じる。

②教員採用試験に向けたサポートが充実している

私は中学校数学の教員採用試験の合格をいただくことができた。これは採用試験に向けた勉強に取り組める環境が整っていたからだと思う。特に２次試験で行われるような個人面接や集団面接などの一人で行うことが難しい勉強を重点的に行っていただけたのは合格への大きな原動力となった。

③１年半にわたるインターンシップの制度

教員養成特別コースでは１年次の後期から２年次にかけて長期にわたるインターンシップに行かせてもらうことができる。新人教員として実践力をつけた状態で教員になるために，長期にわたって現場の経験をつむことができた。現場で経験をつんで大学院で経験の振り返りをすることで学びにつながっていった。理論と実践の融合が大事だとよく言われるが，２年間そのサイクルを回すことで着実に力をつけることができた。

④大学院での出会い

他の教員養成特別コースの人とは時にぶつかり時に励ましあってきた。また現職の先生方には辛いときに，実習のアドバイスや励ましをいただいた。私は教育に対する情熱をもった方々に恵まれたと思っているし，大学院で縁があった方々に感謝をしている。

教育とは答えなき道を探し続ける旅人のようなものだと考えている。人と人が本気でぶつかりあう学校現場にその本当の答えはなかなか見つけていけないと思う。だからこそ自分自身の人としての人格を高めていく必要があると考えている。そして大学院で学んだことを学校現場で生かしていきたい。

入学当初は大学院進学に悩んでいたが今は来てよかったと心から思っている。それも全て関わってくださった方々のおかげである。この場を借りてお礼申し上げたい。

今まで本当にありがとうございました。

退職にあたって

Fare thee well!

◆　言語系コース（国語）　教授　小　野　由美子

本学に着任して以来、留学生の日本語教育、国際教育協力、さらにはグローバルな視野を持った教員の育成に従事してきました。そして、１年の半分を途上国で過ごす生活で定年退職を迎えました。その間の出来事を思い出すと、赤面し反省するようなことばかり。鳴門教育大学というコミュニティの皆さんに見守られ、育てられた年月でした。どうもありがとうございました。

旅芸人，何処へ

◆現代教育課題総合コース　教授　小　西　正　雄

平成３年の春に本学に着任した時も本誌から寄稿を求められて，わが身を語るに「地球旅芸人」なる空虚な言を弄した記憶がある。しかし，今にして思えば，「地球」はともかく「旅芸人」という物言いは，その後の道行きをある程度暗示していたようである。

教材研究と称して海外各地に出かけたことや広報担当学長補佐として全国の教育委員会や私立大学を訪問したという文字通りの「旅」もさることながら，教育・研究の歩みについてもレトリカルな意味でまさにそれは「旅」であった。当初の10年間は社会系教育講座で社会科教育を担当させていただいた。自身の研究もそれにまつわる実践的な論考が多かった。後半の14年間は総合学習開発講座・現代教育課題総合コースの担当となり，五十の手習いよろしく教育人間学の世界に首をつっこみ，自身の研究としては，相対主義批判をはじめとする文化研究に舵を切ることとなった。あげくには「現代の諸課題と学校教育」なる壮大なテーマを掲げた講義を担当するに至った。

地道に学問研究に没頭するという一般的な研究者のイメージとは程遠い異形の「旅」であった。「芸人」と開き直るほど自虐的でもないが，どこやら隙間風の吹くのを感じなくもない。でも，総じて楽しかった。お世話になりました。

退職にあたって

大学の塀の中で47年

◆ 国際教育コース　教授　近　森　憲　助

北海道大学に入学したのは1969年。東大の入試がなくなり，大学は学生紛争の嵐の中で騒然としていました。それ以来大学の塀の中で47年。当時は，携帯やパソコンなど，今ではごく普通の生活アイテムなど夢想にもできない時代。名刺の電話番号欄に「呼出」などと付記されたものまでありました。私の修士論文のテーマは，ブタの赤血球からの酵素の精製というものでしたが，これも手書き。そのため，挿入・削除などは簡単にできず，手書きの原稿が，指導教員と私の間で行ったり来たり。いつになったらＯＫが出るのか，やきもきしたことを今でも覚えています。

徳島大学の解剖学の助手を9年勤めて，30年前に本学に助手としてやってきました。理科から総合へ，そして国際へと所属が移ろう間に，初代の前田学長から田中学長まで，創立以来すべての学長のもとで働いてきました。助手という職位は，すでにありませんが，大学の職業文化を体現するものだと，いまでも思っています。鳴門に移ってきたときには，米澤先生や西村宏先生というプロの助手経験をもった錚々たる先生方が，助教授として赴任されていました。お二人の先生方から，「大学人としての矜持というもの」をしっかりと学ぶことができました。そのことを今でも心から感謝しています。

大学入学以来50年近い時間の流れの中で，大学も大きく変貌しました。最近になってやっと学問する楽しさが，少しは分かってきたような気がしています。私のようなちゃらんぽらんな人間を30年間も働かせてくれた鳴門教育大学と教職員の皆様に，とても感謝しています。今後の発展を心から祈るばかりです。

鳴門教育大学とのあゆみ

◆ 自然系コース（数学）　教授　成　川　公　昭

多くの先輩，同僚，職員の皆様のおかげをもちまして、無事退職を迎えることになりました。本学へは昭和60年に異動してきて以来，実に31年間お世話になりました。赴任当時の大学構内は晴れた日には砂埃が舞い，雨の日には泥沼のような中を人文，本部棟と学生会館の間を板きれが渡されていた殺風景な記憶しか残っていません。植えられた木々もか細く，弱々しく，駐車場には排気ガスが木々を痛めるからバックでは止めるなといった御触れまでででました。本学の誕生とともに私も一歩ずつ歩んできましたが，気がつけば，構内には青々とした大きな木々が茂り，季節それぞれに美しい姿を現してくれています。また，ここで学び，卒業，修了した多くの方々が各地で活躍され，たくましく大きく成長した姿を見せてくれます。一方で，忍び足のように時は過ぎ去り，何の貢献も出来ず，大した研究成果も上げることが出来ず，はっと気づけば，ただただ年老いた自分の姿を発見して愕然としてしまいます。とはいえ，周りの皆様方のおかげで，十分に研究生活は楽しませて戴きましたし，学生諸君とのふれあいも私の人生の宝となりました。

再度，鳴門教育大学でともに過ごした教職員，学生の皆様に心よりお礼を申し上げるとともに，これからのご健康，ご活躍を祈っています。そして，ありがとう，鳴門教育大学。厳しくてもなお大きく成長していってくれることを心より願っています。

退職にあたって

教育のふるさと，ここは

◆ 芸術系コース（音楽） 教授 **松 岡 貴 史**

本学に着任以来約30年，早いものでこの３月に定年です。初等音楽Ｉで初めてピアノを習う学生，作曲の授業で作品発表する学生や模擬授業で教壇に立つ学生の目の輝きが脳裏に浮かびます。また，学生たちが共同制作したオペレッタを附属小学校，院生の勤務校，文化の森で発表したことや，院生たちとともに創作し工夫したプログラムで附属中学校コンサートを行ったことなど，懐かしく思い出されます。彼等が，感じ，考え，表現し，認め合うことのすばらしさを子どもたちに伝え，学校が子どもたちの文化創造の場となるよう，期待してやみません。

鳴門教育大学はすばらしい大学です。大学を取り巻く状況は今後も厳しいものと思いますが，屈せず，学歌の歌詞にもあるように，教育のふるさとであり続けてほしいと願っています。

これまで教職員の皆様には大変お世話になりました。学生たちからもたくさんのエネルギーをもらいました。心から感謝いたします。

楽しくなってきたところで退職

◆ 生活・健康系コース（保健体育） 教授 **吉 本 佐雅子**

保健体育の学校保健分野教員として，平成９年４月に着任し，以来19年間，お世話になりました。着任当時は，教育分野の仕事は全く初めての経験で，大学組織のシステム，カリキュラムを始め，様々な事が初体験で理解するのに苦労しました。一番苦労したのが，授業の多さでした。着任後4，５年間は試行錯誤の連続で，ひやひやしながら授業をこなしていました。当時の学生の方，時効として許して下さい。教員養成や教育分野に関わる楽しみがやっと感じられるようになってきたところで退職となり，少し残念な気がしますが，教師と言う職業をめざした学生の皆さんと知り合い，お付き合いできた事は鳴門教育大学に来た一番の収穫です。また，本コースの卒業者，修了者の方が，今も学校現場で活躍されている事が本当にうれしいです。自分自身の教育・研究においてやり残したことは沢山ありますが，何とか大過なく退職をむかえられたのは，保健体育コースの皆様を始め，学生，教職員の皆様のおかげです。特に，各課の職員の方々には誠実に親切に対応して下さり，心から御礼を申し上げます。来年度からの大学改革によりさらに発展を遂げられますようお祈り申し上げます。

退職にあたって

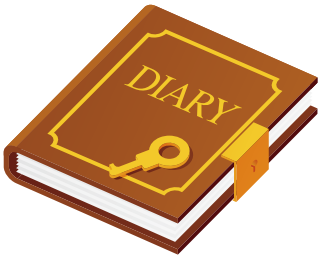
定年を迎えて

◆ 学生課長　溝　下　洋　和

11年前に初めて学生課に転出した。34年前大学職員採用時に望んだ部署だった。以来，高専で４年半，大学で３年間，定年最後の年も学生課で迎えられたことは幸せだったと思う。教員ではないけれど，成長過程の人間に関わる仕事に携われたことは，喜びであり誇りでもある。さまざまな人に支えられてここまで来た。私事でも結婚して，３人の娘の父となり，昨年には末娘が結婚した。妻には先に逝かれてしまったが，私の胸の内にはまだ生きている。「ご苦労様」と言ってくれている。いや，お前のおかげだと言ってやりたい。

感傷にふけるのではなく，これからの第二の人生を強く生きていこう。まだまだ勉強がしたい。いろいろな処へ旅してみたい。もっともっと本が読みたい。出会っていない様々な人と出会いたい。新しい友達がほしい。

ともあれ，３月の学位授与式では学生達の出発（たびだち）を見送ろう。その後は定年だ。そして４月には３人目の孫が生まれる。身内の成長に関われることはこれまた至極の喜びだ。



附属図書館における「特別展示会」の開催

◆ 附属図書館事務室　事務室長兼主幹　吉　田　敬　治

私は大学事務職員として36年間勤務し（鳴門教育大学で20年，徳島大学で16年）大半を附属図書館で過ごした。平成16年度から，国立大学が法人化され，図書館でも新しい取組みが求められ，読書啓発活動の一環として学生，一般市民に対して，図書館所蔵の資料を公開する「特別展示会」(平成27年度まで18回) を様々なテーマで行ったが平成21年度に郷土徳島(阿波)を題材にした，「名所図会と徳島」が心に残っている。阿波名所図会（2牧2冊）は1814年に出版されたが墨一色の絵のため，故赤松万里教授(近世文学)のグループが名所図会を歴史教材などに活用しようと彩色に着手した。

眉山から眺めた桜の名所，旅装束姿の人々などが色鮮やかに再現され，美しい景色とともに，観光地のにぎわいぶりや庶民生活の様子が生き生きと表現され，来館者の目を引き付けた。

阿波名所図会の文化遺産を地域における歴史研究にまた，児童・生徒の総合学修の一環に役立てて欲しいと願いながら，今後も展示会等の社会貢献事業への一端を担う活動に微力ながら関わりたいと願っている。

鳴門リレーマラソン

第１回鳴門リレーマラソン大会IN鳴門教育大学について

◆　第１回鳴門リレーマラソン大会実行委員会会長　鳴門教育大学　理事・副学長　黒　川　丈　朗

去る２月７日(日）第１回鳴門リレーマラソンIN鳴門教育大学を開催し，無事に終了することができた。実行委員会会長として，PDCAのCheckを兼ねて本事業の概要報告をさせて頂くこととする。リレーマラソンは，１チーム５人から20人の仲間がタスキを繋いで42.195Kmを走る周回型のマラソンイベントである。本学キャンパスでは大学会館前をスタートし玄関アーチをくぐり外周約４分の１を経て体育館前1.14Kmのコースを時計の反対回りに37周走る設定とした。ICチップの付いたタスキを使った電子計測により各チームのラップタイム，トータルタイムをスマートフォン等にリアルタイムで表示するとともにwebページに記録として掲載する。これにより参加チームの仲間がラップタイムを眺めつつ進行中のレースを楽しむことができる。市民の健康増進，組織内での異年齢コミュニケーション形成や地域コミュニティの活性化など，多くの可能性を持つスポーツイベントである。

本事業は，鳴門市と鳴門教育大学の連携協議会における連携事業としての企画「PLanning」である。運営主体となった実行委員会は，会長（筆者），副会長 鳴門市 谷 重幸 副市長，本学生活健康系(保健体育)コース長 綿引勝美 教授，鳴門市 林 泰右 事業推進監兼企画総務部長，坂下健太 院生会長，知花泰斗 学生会長，森 翔太 ふれあいアクティビティ代表など大学院生及び学部学生を交えた委員で構成された。実行委員会として参加者を如何に集めるかが最重要課題であった。手探りながら鳴門市商工会議所，観光協会，教育委員会，関係事業者の方々に協力要請を行いつつ準備を進めた。昨年10月から新聞やラジオによる告知とともに鳴門リレーマラソンwebページを開設し１月中旬までの予定で参加50チームを募集したところ，当初の期限前に予定を上回る61チームのエントリーがあり，約600人の参加申込みを受けた。

参加者数が募集数を超えたことで収支バランスの目処が付き，具体的な準備を進める中で，より徹底した安全対策を重視することとした。鳴門市企画戦略課が実行委員会事務局として正に「Do」を担当し，本学関係各課と綿密な調整を行い，実行委員会委員の学生を通じて集まった30人以上の本学学生がボランティア・スタッフとして参加し，前日の会場設営から大会運営，会場撤収に至るまで積極的に携わり本事業の円滑な運営を支えた。当日は参加者の入構に伴う駐車場誘導，参加チーム受付，ランナーの安全確保のためコース内誘導など，運営に不可欠な役割を手際良く果たしてくれた。特にコース内誘導は２名１組を一定距離ごとに配置し，通過ランナーに積極的な声援を送り続け，多くの市民ランナーが爽やかな学生達の笑顔に応え走りを加速させた。様々な楽しみの要素を持つリレーマラソンであるが，スタートからの制限時間は５時間である。

第１回目の結果として，一般参加チーム第１位２時間22分24秒，第２位２時間36分23秒，第３位２時間47分34秒，小学生５人以上含む児童混合チーム１位は２時間48分７秒であり，総合４位のタイムを記録し，最終チーム４時間10分１秒で61チームが完走した。第２位，第３位は本学院生チームであるが，特に第２位の五郎丸チームは全員が仮装装着というランナーとして難易度の高いパフォーマンスを見せたことは賞賛に値する。61チームのランナーの中には本学職員２チームのほか，愛知教育大学職員チーム，明石工業高等専門学校チーム，文科省行政実務研修生，九州大学職員など，国立大学法人同士の絆による参加もあり，市民の健康増進のみならず，ツーリズムや地域振興に繋がることを確信した。鳴門教育大学キャンパスのアカデミックゾーンを初めて駆け抜けた多くの参加者が感じたであろう爽やかな達成感とともに，本学がより身近な存在になったので

鳴門リレーマラソン

はないかと思う。

人が集まり動くイベント企画の中で，鳴門のおもてなしのために，自ら参加し鳴門市チームのアンカーを走り抜いた泉 理彦 鳴門市長を始め鳴門市幹部職員の皆様の働きかけにより地元の多くの事業者の方々から物心両面での御協力と御支援を頂いた。一方で学内教職員の皆様には，論文審査や研究成果報告会などの時期と重なりながらも，本学キャンパスを会場とすることについての御理解とともに，学内清掃や心身健康センターの御配慮，御協力を頂いたことに心から感謝申し上げる次第である。

最後に，本学卒業生の鳴門市三井戦略企画課長の行動力と後輩への温かい心配り，計測協力ほかリレーマラソン運営指南役を務めた(株)スポーツリンクアンドシェア川前氏(鹿屋体育大学卒業生)の生涯スポーツ振興にかける情熱と実行力に心から感謝と敬意を表して，第2回鳴門リレーマラソン開催のための「Action」に活かしたい。

第1回鳴門リレーマラソンin 鳴門教育大学

リザルト　　2016/02/07　10：00：00 スタート

順位	ｸﾗｽ順	No.	チーム名	記録
1	1	105	三愛走飾クラブ	2：22：24
2	2	149	チーム五郎丸	2：36：23
3	3	155	IWOS	2：47：34
4	1	204	松茂ダッシュ	2：48：07
5	4	108	SGB	2：52：08
6	5	150	野生のどちんばん	2：52：45
7	6	154	ファイアーファイターズ	2：53：43
8	7	111	大塚テクノ	2：54：18
9	8	153	しょうへい会	2：58：56
10	9	145	三愛走飾クラブ	3：00：13
11	10	147	フットサル秋山会 陸上部	3：00：27
12	11	141	グリーン／レッド	3：03：29
13	12	146	SSランナーズ	3：03：30
14	13	133	スプリング∞	3：04：03
15	14	121	ビーギフトつじよしと村さ来と愉快な仲間たち	3：05：27
16	15	103	葉月連RC+	3：06：57
17	16	157	Regolith	3：08：05
18	17	109	徳島航空基地隊気象班	3：10：12
19	18	140	チーム だってマラソン王子だもん！	3：11：19
20	19	134	チームうずしお	3：12：29
21	20	107	実走者RC	3：14：40
22	21	115	鳴門塩業	3：15：14
23	22	137	ち～む わ～ちゃん	3：15：46
24	23	127	教員就職率トップの学生に負けじと僕らは今日も走り抜き隊	3：15：55
25	24	139	スペシャルオリンピックス日本・徳島	3：16：30
26	25	136	TEAM ONEPOINT	3：17：41
27	26	131	兵庫県立淡路医療センター マラソン部	3：18：09
28	27	106	日亜化学 鳴門工場 人力旅行部	3：18：45
29	28	104	アイクロン四国	3：20：40
30	29	123	玉ちゃんズ	3：20：49
31	30	132	ICHIJO RUNNING CLUB	3：22：00
32	31	113	川島病院 遊走会A	3：23：06
33	32	156	チーム東京海上日動	3：23：37
34	33	135	@CITY.NARUTO	3：24：06

鳴門リレーマラソン

鳴門リレーマラソン

鳴門リレーマラソン
FINISH

鳴門リレーマラソン
FINISH

鳴門リレーマラソン
FINISH

鳴門リレーマラソン
FINISH

鳴門リレーマラソン
FINISH

FINISH

鳴門
リレーマラソン

第6回日中教師教育学術研究集会

◆ 第6回日中教師教育学術研究集会実行委員長 （国際交流担当副学長） 近 森 憲 助

開会式（挨拶する田中学長）

昨年の11月7，8日の2日間「教師教育の質保証」をテーマに第6回日中教師教育学術研究集会が本学において開催されました。今回の研究集会には，石中英北京師範大学教育学部長をはじめとして，北京師範大学から20名，国内からは，本学教員や学生を含め81名，あわせて101名の参加がありました。

研究集会の初日には，田中雄三学長及び石中英教育学部長による基調講演があり，引き続き行われた「教師教育の質保証」をテーマとするシンポジウムでは，西園芳信理事・副学長及び北京師範大学の李琼教授が講演されました。これらの基調講演及びシンポジウムの中心的課題は，日中両国において，学校システムの整備・改革が，数的にも質的にも急速に進展しつつあるなか，教師を如何に確保し，さらに，その質をいかに保証していくかということ，また，その質保証の内容などであったように思われます。

二日目には，①教師の資質（学術，技術，文化と教師像）②教師の高度専門職化と資格制度③教師の質（教育課程，実践，評価）の3つの分科会に分かれて，合計41件の報告が行われました。それぞれの報告をもとに参加者を交えた意見交換が行われ，日中両国の教師教育や教育全体の現状や課題，そして，課題に対するアプローチについての理解が育まれました。

研究集会の開催準備のため，昨年5月に，本学のすべての専攻・コースを代表してお集まりいただいた先生方により，実行委員会を組織しました。学生課をはじめ事務職員の方々にも，多忙な日常業務のなか研究集会の開催のためご努力いただきました。本学のみならず徳島大学に在学中の中国からの留学生の方々には，通訳として，ご支援をいただきました。さらに，研究集会の関連行事として，北京師範大学からの参加者は，附属幼稚園をはじめとする附属学校を見学しました。見学に際しては，附属学校園の園長先生や校長先生はじめ，教職員のみなさんに大変お世話になりました。

このように全学体制で臨んだことで，無事に研究集会を終えることができたことを実行委員長として大変うれしく思うとともに，みなさまのご協力に心より深く感謝しています。

なお，第7回は，2年後の平成29年秋に北京市で開催される予定です。本学をはじめとして国内から多くの研究者・学生が参加し，日中両国間の教師教育に関する議論が，なお一層活発になることを心から祈念しています。

附属特別支援学校との交流

国際交流

田中学長（基調講演にて）

石中英北京師範大学教育学部長

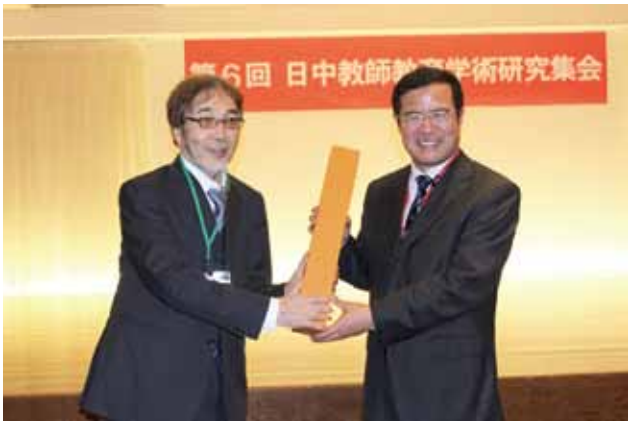
柳澤文部科学省高等教育局視学官

西園理事（シンポジウムにて）

李琼北京師範大学教育学部教授

山下理事（開会式および閉会式進行）

北京師範大学からの記念品贈呈

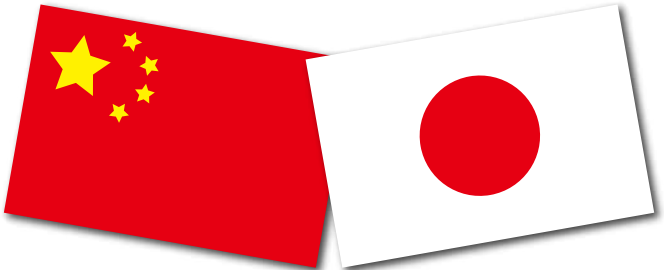


鳴門教育大学からの記念品贈呈

国際交流

分科会の様子

返礼レセプション



全体写真

国際交流

不思議な四国－外国人留学生学外研修に参加して－

◆ 学校教育研究科 陸（リク） 建超（ケン チョウ）（中国）
（教科・領域教育専攻国際教育コース２年）

12月18･19日に学外研修で愛媛県に行きました。

まずアサヒビール工場に行きました。驚いたのは工場であまり従業員の方を見かけなかったことです。機械を利用して，生産している機械化のシステムです。とても驚きました。最大限に人材を節約して，会社のコストも節約できます。

次に，いい匂いがする日本食研に行きました。やはり「食」というものは，どこの国の人にとっても大事なものでしょう。展示のところで中国の名物（老干妈）も見られて，すごく嬉しかったです。従業員の方が一つ一つ材料を選んで，真面目に食品を作っている様子に日本食研の「真心」を感じます。

一日目の夜に，伝説の「道後温泉」へ行きました。初めて温泉に入る私にとって，面白く興奮しました。ホカホカして出てきて，元気も出てきました。

翌日は始めに，松山城へ行きました。一番印象深いのは「隠し門」です。奥の石垣の陰に隠され，埋門形式の櫓門で，戸無門から筒井門に迫る敵の背後を急襲する構えとなっています。豪放な構えで，格子窓形式の突揚げ戸などとともに，築城当時の面影を見ることができます。昔の日本人の知恵を感じました。

また，坂の上の雲のミュージアム，子規記念博物館に行きました。秋山兄弟と正岡子規の「志」にすごく感心しました。特に，子規は病気があっても，俳句を続けている精神に感動しました。子規は日本に野球が導入された最初の頃の熱心な選手であり，自分の幼名である「升（のぼる）」にちなんで「野球（のぼーる）」を用いました。面白い物語だと思います。今，もっとその三人の物語を知るために，NHKのスペシャルドラマ『坂の上の雲』を見ています。

今年も素晴らしい学外研修でした。

こんにちは

幼稚園　最高のスタート

◆ 附属幼稚園　教諭　川　端　大　樹

私は，昨年3月に鳴門教育大学を卒業し，4月より3歳児星組の担任をさせていただいて9ヶ月が経とうとしています。大学3年生の教育実習で子どもたちと真摯に向き合い日々保育をされる附属幼稚園の先生方の姿に憧れを抱き，今，その先生方にご指導を頂きながら保育者としてのスタートが切れていることに，日々幸せを感じています。本当に毎日が学びに溢れています。また，分からないことやできないことの連続で自分の未熟さを感じ，保育者として以前に人間としての弱さや甘さにも向き合い，常に自分自身との戦いでもあります。それでも子どもたちの笑顔や保護者の皆様，先生方に支えられて今があります。

時間はあっという間に過ぎてしまい終業式まであと2ヶ月となりました。一日一日を何となく過ごしてしまわないように心がけながら，常に支えて下さる周りの方々への感謝の気持ちを忘れずに，まずは目前に控えた表現会で一人ひとりの子どもが輝けるように頑張りたいと思います。

小学校　140周年記念総合遊具

◆ 附属小学校　教諭　久次米（くじめ）　昌（まさ）　敏（とし）

附属小学校は，昨年12月2日に創立140周年を迎えました。記念として，運動場南東側に，総合遊具が設置されました。総合遊具は，回転系遊具，ポールを中心に回転する遊具，そして，渡りロープや登り板からなる高難度系遊具の3つの遊具から構成されています。

創立記念日より総合遊具の使用が開始されました。子どもたちは，こんなことをやってみたいな，こうやったら楽しそうだなと工夫しながら遊んでいます。小さい学年の子と大きい学年の子が一緒に話したり遊んだりしている様子も見られます。このように，総合遊具は，遊びを創造し挑戦する場とともに，異学年交流の場になっています。

また，地面は緩衝材が敷かれ，安全面にも配慮されています。起伏や築山があり，色彩も豊かで美しいデザインとなっています。

このようなすばらしい総合遊具が設置されたことに感謝し，末永く大切に使っていきたいと思います。

Photo / Ayumi Nakanishi

附属です

中学校　あふれる思いを形に　ＡＲＴ部

◆ 附属中学校　教諭　岩　佐　宣　之

４月初旬，附属中学校の桜が今年も見事な花を咲かせました。ＡＲＴ部員も美術室から活動の場を中庭に移し，スケッチの開始です。樹木全体を描くだけでなく，花びらを大きく描いたり，降り積もる花びらを描いたり，それぞれがモチーフから受けた感動をめいっぱい画面に表現し，短時間にすばらしい作品を完成させることができました。

9月4日（金），彩「－My color Your color」をテーマとして文化祭が開催されました。文化祭は，ＡＲＴ部にとっては日頃の活動の成果を発表する大切な機会です。部員たちはこの日に向けて，油絵やイラストの制作に励んできました。３年生は卒業制作として共同作品の制作に取り組みます。本年度の3年生は，3名と少ない人数でしたが，4月当初から準備を始め，様々な構想を練り，作品を完成させていきました。

本年度の作品のテーマは，附属中学校が様々な花々や鳥たちに取り囲まれた様子をイメージしたものです。作品は，合板（900㎜×1800㎜）にアクリル絵の具を使い描いています。細かい部分や，根気がいる作業もあり，夏休みも返上して文化祭の直前にやっと完成させることができました。制作を通して，生徒たちは協力して作品を完成させる喜びや，多くの人に見ていただく嬉しさなど，たくさんのことを経験することができました。今後も日々の制作活動を通して自己を磨き，仲間との交流を深め，あふれる思いを形にしていきたいと考えています。

特別支援学校　生活単元学習「思い出コラージュを作ろう」に思う

◆ 附属特別支援学校　教諭　梶　河　智　江

特別支援学校には「生活単元学習」という教科・領域を合わせた生活上の課題を学習していく時間があります。普段はグループ別に学習している生徒たちが，クラスの仲間と共に学ぶ時間です。

今年度我がクラスでは，各行事で撮影した写真をその時に感じた気持ちを伝え合いながらコラージュする授業を行ってきました。共同制作する中で「自分の力を活動に生かす喜び（達成感）」「自分の力を友だちのために役立てる喜び（自己有用感）」「友たちと関わる喜び（社会性・コミュニケーション力）」「思いを共有する喜び（自他の理解）」が自然と感じられればと思い取り組んできました。この授業で感じた喜びが生徒たちにとって生きてはたらく力となり，今後仲間と共に豊かな生活を送るための礎となってくれることを願っています。

写真は人生の記録です。写真を残すこと，写真を通して思い出を振り返ることは，生徒自身にとってまた家族にとっての楽しみです。この授業を通して，写真を撮影することにも興味を持ち，コラージュがアルバム作りに活かされることで，生徒たちの人生が，より楽しみ多いものになってくれればと考えています。

先輩からのメッセージ

教師１年目

◆ 浜松市立北浜東部中学校　教諭　川　合　良　幸

鳴門教育大学を卒業し，もうすぐ１年になります。私は，昨年まで中学校専修・社会科教育コースに所属していた川合良幸と言います。当時はラグビー部に所属していました。

私は４月から静岡県浜松市の中学校に勤めています。現在は２年生の担任，ソフトボール部の主顧問をしています。戸惑いながらも日々奮闘しています。

もうすぐ初任者としての１年間が終わります。すべてのことが初めてであり，あっという間に１年が過ぎてしまった気がします。

「思っていた何倍も大変だった。」，これが初任の１年を終えて感じている正直な感想です。教育実習などでは，主に授業を中心にやったと思います。当時の自分はそれで精一杯でした。ただ，実際に働き始めると，授業に加えて，部活動や生徒指導，分掌業務，保護者対応などがあります。また，土日は部活で終わってしまいます。正直言うと辛くて，嫌になることもあります。

夢と希望に燃えている鳴教生にこんなことを言ってしまうのもどうかと思いますが（笑）

しかし，大変なことが多い分，やりがいもかなりあります。

はじめは上手くいかなかった学級経営。諦めず，毎日の朝の会や帰りの会，道徳の授業などで自分の思いを伝え続け，学級通信も発行しました。その結果，次第に生徒がこちらを向き，話を聞いてくれるようになってきたのです。今は４月になってクラスが変わってしまうことが本当に寂しく感じています。このクラスが大好きです。

部活動においても，女子の部活動ということで，戸惑うことも多かったですが，今は練習の成果を試合で出せることが本当に楽しいです。

教員採用試験の面接試験でよく聞かれる質問に「教師に必要な力は何か」というものがあります。

私は「人を頼ることができる力」だと思います。何かが分からない時，何かに迷っている時，悩んでよく考えることも大切です。ただ，多忙な日々の中では，先輩にどんどん聞いていくことが大切だと思います。人に聞けるのは若いうちだけだとよく言われます。だからこそ勇気を出して聞くことが大切です。色々なことをどんどん吸収していきましょう。

また，同期の仲間に「頼ること」も大切なことです。私は同期の初任者が小中合わせて100人近くいます。初任者研修で中を深め，今ではよく飲みに行く仲間となっています。皆，同じ悩みを持っていることが多くストレス発散の場ともなっています。

最後になりますが，大学の４年間で学んだことは，すべて大切だったと思います。一番打ち込んだラグビー，友達とよく飲んだこと，就職支援室に毎日一生懸命に通った教採の経験，遅くまでやった卒論。すべてが私の力になりました。きっと皆さんが今やっていること，してきたことも必ず力になっていくと思います。偉そうなことばかり言って申し訳ないですが，これからも後悔のない日々を送ってほしいと思います。

学生会・院生会だより

本年度を振り返って

◆ 学生会長　知　花　泰　斗

私が学生会の会長を務めさせていただいて，早１年が過ぎようとしています。今年度は１年生が多く学生会執行部に入ってくれたことで，よりスムーズに楽しく活動をすることができました。

学生会としては，部活動紹介，かき氷大会，写真にもあるヴォルティススタジアム学園祭，ココアデーといった毎年行っている行事に加えて，今年度から新入生を対象としたうずフェスという新たな企画を実施しました。このような行事は，学生会だけでなく多くの方々の協力を得て行っています。多くの方が関わることによって，より楽しい活動になると思うので，来年度もみなさんの積極的な参加を待っています。そのために，学生会執行部もうずフェスのように新たな行事を企画していきたいです。

最後に，学生会執行部として残す行事は卒業・修了記念パーティのみとなりました。お世話になった先輩を気持ちよく送り出せるよう，院生会の皆さまと協力して準備していきたいと思います。１年間ありがとうございました。

（中学校・社会科教育コース　3年）

次の院生会へ

◆ 院生会長　阪　下　健　太

本学に入学し，たくさんの出来事や，出会いがあって，早くも一年が経とうとしています。

後期の院生会の活動では，12月にはソフトバレー大会がありました。今年は大学内でのイベントが多く，院生の希望にあまり添えない日程になってしまいましたが，それでも多くの院生の方々に参加していただき，思い出に残る大きなイベントにできたかなあと思っています。忙しい中，運営の手伝いや，サポートをしていただいた院生会役員の方々をはじめ，たくさんの院生の皆様に感謝いたします。

そしてこの3月に，卒業終了パーティがあります。卒業生，修了生にとっての，いい門出になるような催しにできたらなと考えています。

院生会長として，一年を振り返ってみると，数々のイベントを院生会の役員中心に運営してきました。時にはぶつかり合うこともありましたが，その中で，ここでしか見つけられないたくさんの大事なものを得られたような気がします。

そして院生会として，最後の仕事は，今までの院生会としての仕事や思いを，次の代へ伝えることです。ここがよかった，ここがダメだった，などきちんと反省し，次の代がよりよくなるために最後の仕事をきちんと果たそうと思います。

最後に，平成27年度院生会にご協力くださり，ありがとうございました。来年度も，院生会をどうぞよろしくお願いします。

（自然系コース（数学）　1年）

課外活動 サークル紹介

男子バスケットボール部

◆ 男子バスケットボール部　主将　**町　田　哲　郎**

私たち男子バスケットボール部は梅野先生ご指導の下，4年生3人，3年生4人，2年生2人，1年生6人の計12人のプレイヤー，そして3人のマネージャーとともに活動しています。人数が少ない部活ですが，そのぶん団結しています。また，女子バスケットボール部と一緒に練習をしています。月曜，水曜，土曜の練習に加え，夏には強化練習，冬には30kmマラソン，春には合宿といった多くのイベントがあります。そして今年は新たに２月も強化練習を行ないます。３月には全教があり，全国の教育系大学と試合をすることができるなど，思い出に残る活動が出来るのが私たちの部活の特徴です。しかしインカレなどの公式戦で結果を残すことができていないので，結果を残せるよう練習に励んでいきます。

児童文化研究会

◆ 児童文化研究会　部長　**大　西　志　帆**

私たち児童文化研究会は，大学図書館内の児童図書室を主な活動拠点とし，年に2回お楽しみ会を開催したり，児童図書室の開室日（水・土・日・祝日13時～16時）に来てくれる赤ちゃんから小学生ぐらいまでの幅広い年齢の子どもたちと一緒に遊んだりしています。

また，毎年，５月にアスティ徳島で開催される次世代育成支援イベント「おぎゃっと21」に参加し，季節の工作や絵本の読み聞かせを行っています。今年度は，初めての活動として，徳島大学主催の「とくしまこどもまつり」にも参加しました。他にも，絵本のワークショップやストーリーテリング，わらべうた講習会など，１年間を通して数多くのイベントがあります。

現在，部員は40人で，和気あいあいと楽しく活動しています。このサークルに所属してから，絵本に触れる機会が増えたり，自然に子どもと関われるようになったりした学生もいます。また，子どもだけでなく，保護者の方や地域の方ともお話する中で，多くのことを学び，物事に対する視野が広がってきたようにも感じます。

みなさんも，ぜひ一度児童図書室を訪れてみてはいかがですか？

課外活動 サークル紹介

イベントを通じて深まる絆

◆ 女子バスケットボール部　主将　岡　本　　悠

寒さが厳しくなってきたこの頃ではありますが，私たちバスケットボール部にとってはイベント盛りだくさんの熱い時期を迎えました。私たち女子バスケットボール部は，プレーヤー８人，マネージャー３人と男子バスケットボール部18名，計29名で日々の練習に取り組んでいます。

バスケットボール部では年間を通して多くの行事があります。夏のインカレをはじめとする大会はもちろん，季節ごとにある強化練習やOB・OGの方々との交流会を行っています。そのような中でも年間の後半にかけては最もイベントの多い時期です。今年は奈良で開催される全国教育系バスケットボール大会や日和佐での春合宿，マラソンなどがあります。

バスケットボール部は男女とも，そして先輩後輩ともに仲の良い部活です。たくさんのイベントを乗り越えていく中で信頼を築き，楽しく部活動しています。そして，大会や試合で良い結果を残すことができるよう，これからも頑張ります。

PLUS１の活動について

◆ PLUS1　代表

PLUS１は特別活動のサークルを作ろうということで数年前に結成されたサークルで、現在の活動内容は主にボランティア活動と学祭での模擬店の出店を行っています。サークルのメンバーは約30名で、活動は不定期で行っています。

ボランティアは、学校で募集されているものはもちろんのこと、様々な場所で募集されているボランティア情報をメンバー間で共有し、都合の良いメンバーを集めて活動しています。具体的には、清掃作業、幼稚園のお祭りの手伝い、スポーツ大会運営のボランティアなど様々です。ボランティアでは普段の生活では味わえないようなすばらしい経験ができ、それぞれのメンバーは成長の糧にしています。

学祭の模擬店は例年に引き続き焼き鳥の店を出店しました。準備段階からサークルメンバーで協力して取り組み、学祭期間は充実した時間をすごしました。学祭の後には打ち上げもあり、メンバーの親睦を深めることができました。

これからの活動としては、引き続きボランティア活動を行っていくことに加えて、球技などのレクリエーションや教員採用試験に向けての勉強会など、様々な活動を行っていこうと考えています。特別活動サークルPLUS1をよろしくお願いします。

情報基盤センターよりお知らせ

情報基盤センターにおける様々な取り組みのご紹介

◆ 情報基盤センター所長　伊　藤　陽　介

情報基盤センターでは，情報システムと情報教育に関する教育研究に加え，情報セキュリティ対策と啓発活動，学内情報基盤の管理運用と利用支援に関わる講習会や相談等に関わる様々な業務を行っています。平成26年2月から稼働している情報基盤コンピュータシステムを中核として，皆様の学習や教育研究活動を支援しています。ここでは，本センターの取り組みについてご紹介します。

（1）情報セキュリティ対策について

情報セキュリティは社会的に大きな関心事項となっており，組織や個人において情報セキュリティの確保が重要な課題となっています。本センターにおいても，情報セキュリティを向上し，安心して情報環境を利用して学習したり研究したりできるように様々な対策を行っています。技術的な取り組みとして，本学とインターネットとの出入り口に，ファイアウォールやプロキシーサーバ等のシステムを設置し，学外からのサイバー攻撃を防御しています。学内ネットワークの通信も常に監視し，異常通信を検知した場合，当該利用者に対して確認を依頼するメールをお送りしていますので，その際には迅速な対応をお願いします。一方，情報セキュリティの確保では「技術的な取り組み」に加えて「人的な取り組み」も重要です。本学構成員の一人一人が，情報セキュリティに対する意識を高め，パソコン等の情報機器の状態を常に最新の状態に保ち，適切な対策を行った上で使用することが求められます。

本センターでは，平成18年度から情報セキュリティに関する基礎的な理解を深め，情報セキュリティの知識や意識の向上を図ることを目的とした「情報セキュリティセミナー」を実施しています。本セミナーには，サイバー犯罪や情報セキュリティの専門家を講師として招き，最新の情報を提供しています。本セミナーに参加して情報セキュリティに対する知識を深めていただきたいと思います。

さらに，サイバー攻撃が年々巧妙化していることを考慮し，標的型攻撃メールに対する意識を啓発するとともに，本学の情報セキュリティ環境を向上させることを目的として，平成27年12月には「標的型不審メール訓練」を実施しました。

本センターのウェブページやメール等により，情報セキュリティに関する様々な情報提供を随時行っています。パソコン等の情報機器を使っていて動作がおかしい等，情報セキュリティに不安のある場合には，すぐに本センター利用支援室へご相談ください。

（2）学校教育用ソフトウェアについて

小学校や中学校では，発達段階に応じた教育用ソフトウェアが利用されています。これらのソフトウェアは，一般向け事務用ソフトウェアとは異なる設計思想と利用方法を備えています。また，授業を作るときに便利なイラストやひな形等が提供されており，学校教員を目指す方にはぜひ習得していただきたいと思います。

平成26年2月より，小学校教育用ソフトウェア「ジャストスマイル」を導入しています。このソフトウェアの市場占有率は約8割といわれており，本学附属小学校にも導入されています。ひらがなや漢字の学習段階に対応した学年別のメニューやかな漢字変換辞書が利用できます。簡単な操作で高いレベルの発表作品や動画，音楽を作る仕組みに加え，学校教員の意見を豊富に取り入れたテンプレートは児童の利用のみならず，教員の資料作成や校務においても十分利用価値の高いものです。

平成28年1月より，中学校教育用ソフトウェア「ジャストジャンプ」を導入しています。本ソフトウェアは，文書作成，表計算処理，プレゼンテーション作成への利用に加え，ウェブページ作成や画像処理，ビデオ編集等ができます。各教科や総合的な学習の時間における授業，情報教育等を効果的に実践するために利用できる他，校務の効率化を支援します。本ソフトウェアは本学附属中学校においても導入されています。

「ジャストジャンプ」には，自由度の高い罫線機能や縦書き用機能が充実している文書作成ソフトウェア「一太郎」が含まれています。「一太郎」は日本語表記に必要なきめ細やかな書式を実現できることから国語科教員を中心として人気があります。学校では過去に作られた文書を再利用することが多いため「一太郎」の利用頻度はいまだ高く，教育実習や学校教員採用前までに基本的な使い方をマスターしておくことが望ましいと思います。

また，教育用端末室とマルチメディア教育実習室には，簡易型電子黒板を設置するとともに，小・中学校において導入されている教育支援システム「SKYMENU」も利用できます。ＩＣＴを利用した模擬授業の実施や研究等において活用してください。学校教育用ソフトウェア及び教育支援システムを取り扱った講習会は，毎年１回開催しています。

情報基盤センターよりお知らせ

（3）学術認証フェデレーションについて

平成27年7月より，学術認証フェデレーション（以下，学認）のサービスを開始しました。学認は、参画している大学や機関・出版社等から構成され，互いに信頼することによって認証連携を実現しています。学外からもインターネットを介して，鳴門教育大学のユーザアカウントとパスワードを用いて，学認に参画している大学や商用サービスを利用できます。

現在，学認によって利用可能なサービスは，論文や図書・雑誌等の学術情報を検索できるデータベースの「CINII」，「EBSCO HOST」，「SCIENCEDIRECT」，「SPRINGERLINK」，「PROQUEST」，電子書籍・辞書の「ジャパンナレッジLIB」，「MARUZEN EBOOK LIBRARY」及び，大容量ファイル転送サービス「FSHARE」の8種類となっています。

学認サービス開始後，日々コンスタントに1～3件のアクセスがあり，月約50件となっています。今後，国立情報学研究所が運用しているサービスを中心として，学認の利用範囲を順次拡充していく計画です。平成28年度中には，国内外の大学等教育研究機関の間でキャンパス無線LANの相互利用を実現する「eduroam」サービスを開始する予定です。

（4）講習会について

本センターでは，情報リテラシーの習得支援のため，レポートや論文作成における文書作成，アンケート集計や統計分析等を行う表計算処理，授業や教育実習，学会等における講演発表用プレゼンテーションの作成を想定し，対応する各ソフトウェアの操作方法や利用例等を取り扱った講習会を開催しています。文書作成（初級）では「文書の作成，文書書式の設定方法，表や図の挿入等の基本的な操作方法」，表計算（初級）では「表の作成，データ入力，数式，グラフの挿入等の基本的な操作方法」，プレゼンテーション作成（初級）では「スライドの作成，図形やグラフの挿入，アニメーションの設定方法等の基本的な操作方法」について講習しています。平成27年度は延べ15回の講習会を開催しました。各講習会に参加してソフトウェア活用能力の高い社会人を目指してください。また，講習会で新たに取り上げてほしい題材やソフトウェア，実施時期等について要望がありましたら本センター利用支援室までお知らせください。

講習会の様子

（5）学生ＩＣＴサポートについて

学生ＩＣＴサポートは，ボランティア活動の一環として「学生同士で教えあい，学びあうこと」を目的に平成25年度から活動しています。本センターでは，活動場所の確保に加え，様々なレベルのガイドブックや技術資料，検証用具等の整備を行い，学生ＩＣＴサポートを支援しています。相談に来た方々からは「学生同士なので気軽に基本的なことが聞ける」等と好評を得ています。平成27年度後期は，月・火・木曜日の各午後の時間帯に活動を行い，「端末機からプリンタに印刷する手順」や「文書作成，表計算，プレゼンテーション作成等の各ソフトウェアの使い方」，「自分のパソコンやスマートフォンから学内無線ＬＡＮへの接続方法」等の多くの質問がありました。「パソコンをどうやって操作したらよいかわからない」，「ソフトウェアのアップデート方法がわからない」，「きちんとウイルスチェックができているか不安」等，些細なことでもかまいませんので，困ったことがある場合は，ＩＣＴサポートの時間帯に活動場所まで来てください。

本センターでは，毎年度2回ＩＣＴサポートに参画したいボランティア学生を募集しています。ＩＣＴサポート員として登録された学生には，本センター特製のネームタグを貸与し，教員採用試験の出願時に必要なボランティア証明も発行できます。平成28年度の活動場所や時間につきましては，本センターウェブページでお知らせするとともに，学内掲示板や各端末室にポスター掲示する予定です。

学生ＩＣＴサポート活動の様子

今後とも，本センターでは利用者本位で安心して使えるＩＣＴ環境を提供するため，皆様からの意見や指摘に基づき改善していきます。平成30年2月から稼働させる第7期情報基盤コンピュータシステム（仮称）の設計を平成28年度より開始します。皆様の学習や教育研究に係る支援活動をより充実したものとなるように，忌憚のないご意見をお聞かせください。

健康手帳

ストレスと心身症

◆ 心身健康センター所長　廣　瀬　政　雄

心身健康センターでは保健体育科の授業以外に，幼児教育課程で「子どもの保健」と「子どもの地域保健」の授業を担当しています。子どもの保健では主に子どもの身体疾患を対象とし，地域保健は子どもの心理行動面の問題を扱います。

心理行動面の問題とは，その発症と経過に心理社会的因子が密接に関与し，器質的ないしは機能的な障害が認められるもので，心身症と呼ばれます。その病態は，ストレスによって，自律神経系，内分泌系，免疫系，運動系および感覚系などに変調をきたした状態です。これ以外に神経症とうつ病の頻度が高く，しかも誰にでも起きるので，３つを合わせて“心の風邪”といわれることもあります。

現代社会は，養育環境，社会経済環境の変化によりストレス耐性が育ちにくい環境になっているといわれていて，ストレスが過剰となり個人の対応能力を超えてしまい，心身のバランスが崩れた場合に心身症を発症します。また，個人的要因と環境要因に分けられ，ストレスの種類・強さと個人の耐性能力の相互の関係にも関係しています。

定義からも理解できるように，心身症は子どもから大人までのどの年齢層にも発症するものです。症状は年齢により異なり，乳児期は吐乳や下痢・便秘などの全身的症状になりやすく，幼児期には指しゃぶり，おねしょ，どもりなど軽微な症状を反復的に訴えます。学童期にはチック，心因性嘔吐，歩行障害あるいは不登校など生活行動上の問題を伴いやすく，思春期には，過敏性腸症候群や過換気症候群あるいは食思不振など内分泌系および自律神経系の症状が増加します。また，思春期の症状は慢性化することが特徴で，精神症状が増加してきます。

本学の学生や職員の心身症にみられた多彩な症状のうち印象深いものでは，卒業を前にして歩行障害が発生し，約１年間も続いた症例，背中に鉄板が張り付くといった感覚異常を断続的に数年間訴えた症例，試験中に発生した過換気症候群の症例，授業中に頻繁にトイレに行くといった症例があり，卒業前には不眠や腹痛などの腹部症状を訴えるものが多く発生しました。

心身症は慢性的なストレスが原因で起きるので，解決されるためにはストレスの原因が解消されることが必要です。基本的な対応方法として，長い時間をかけて継続的にかかわりながら子どもの成長を見守る姿勢が大切といわれています。また，精神科，心理療法士，教育関係者が家族（特に母親）と連携して対応する必要があります。乳児期や幼児期の心身症は発育環境を調整することで解決しやすいといわれていますが，学童期や思春期のものに対しては家族と治療方針を共有するようにします。

特に，学童期以降には，何らかの理由で通常の学校生活が送れない，あるいは「学校にゆきたくても行けない」不登校の状態が続くと，その後の影響が大きいので，取り組みのあり方が重要といわれます。不登校は子どもの心理的反応であることを理解し，子どもの感情を受容することが大切です。子どもを変えようと無理強いするのでなく，養育者，学校関係者および専門家らが連携し合って，子どもの悩み・不安および行動を長い目で見守り，子どもの内面的成長につながるように，環境を調整するようにします。さらに，最近の厚生労働省研究班の調査で，半年以上，就学や就労をしないなどの理由で「引きこもり」と判断した人たちのうち，少なくとも約８割が精神疾患を抱えていることがわかりました。このような患者には専門家の対応が必要なことはいうまでもありません。

図書館だより

①開館時間の変更について

平成28年4月から，図書館の開館時間が以下のとおり変更になります。ご確認ください。

	通　常　期	休　業　期
平　　日	8:45～21:00	8:45～17:00
土・日曜，祝日	10:00～17:00	休　館

②卒業・修了後の図書館の利用について

卒業･修了後も図書館を利用することができます。利用方法としては，以下の2つの方法があります。

◎来館しての利用

図書の貸出，館内資料の複写等ができます。

図書の貸出をご希望の場合は，身分証（運転免許証，保険証等）を持参してください。「卒業生・修了生利用証」を発行いたします。

◎非来館での利用

利用者から申込みのあった図書について郵送等により貸出を行っています。なお，送料は申込者負担となります。

貸出手続きの詳細については，図書館ウェブページ（http://www.naruto-u.ac.jp/library/）の「一般利用の方へ」→「非来館貸出」をご覧いただくか，電話でお問い合わせください。
(TEL 088-687-6156)

＊平成28年4月から，来館貸出，非来館貸出ともに図書の貸出冊数・貸出期間は以下のとおりとなります。

貸　出　冊　数	貸　出　期　間
8　冊　以　内	1　か　月　以　内

※卒業・修了生へは雑誌の貸出はできません。

③マイライブラリの利用について

「マイライブラリ」は，インターネット上で，図書館からの連絡事項や利用者自身の貸出状況の確認，貸出期間の延長，学外機関からの文献取寄せの申込み等ができるサービスです。大変便利なサービスですので，ぜひご利用ください。

なお，「マイライブラリ」が利用できるのは学内者に限定されています。

◎アクセス方法

図書館ウェブページの「マイライブラリ」をクリックするとログイン画面が表示されますので，「ユーザ名」，「パスワード」を入力してください。

※ユーザ名，パスワード
学内のメール等で利用しているユーザID（学籍番号 or 職員番号）とパスワード。

④ラーニング・コモンズ室について

図書館では，学生の皆さんのアクティブ・ラーニングを支援するために，ラーニング・コモンズ室を設置し，平成28年2月から利用を開始しました。

黒板，電子黒板，iPadを使用した模擬授業を行うことができるエリアとグループ学修を行うことができるエリアがあります。

利用できる設備，利用方法については，図書館カウンターまでお問い合わせください。

なお，ラーニング・コモンズ室が利用できるのは学内者に限定されています。

学生表彰について

本学には，課外活動等において，優秀な成績を修め，かつ本学の名誉を高めた場合において当該学生又は学生団体を学長が表彰する学生表彰制度があります。

平成27年度における表彰が決定した方々は，次の皆さんです。

	氏名(団体名)	所属（学年）		表　彰　事　由
前期	髙山あかね	学　部	中学校教育専修 理科教育コース　3年	第66回四国地区大学総合体育大会　水泳　女子200m 個人メドレー　準優勝
	園山　由華	大学院	教科・領域教育専攻　生活・健康系コース（保健体育）　2年	第18回徳島県女子剣道選手権大会　準優勝 第54回全国日本女子剣道選手権大会　県予選会　準優勝
	金森　優太	大学院	教科・領域教育専攻　生活・健康系コース（保健体育）　1年	第66回四国地区大学総合体育大会　バドミントン 男子シングルス　第三位
	牛尾　太郎	学　部	中学校教育専修 自然系コース（数学）　4年	第66回四国地区大学総合体育大会　陸上競技　男子1500m　準優勝
	山田　裕起	大学院	人間教育専攻 幼年発達支援コース　3年	第66回四国地区大学総合体育大会　陸上競技　男子800m　第三位
	浦山満里奈	学　部	小学校教育専修　生活・健康系コース（保健体育）　3年	第66回四国地区大学総合体育大会　陸上競技　女子走幅跳　第三位
	原田　佳奈	学　部	中学校教育専修 自然系コース（数学）　2年	第66回四国地区大学総合体育大会　陸上競技　女子円盤投　準優勝
	大杉　天斗	学　部	中学校教育専修 技術科教育コース　1年	第22回徳島県50射選手権大会　一般の部　男子　第三位
	栗田　昌幸	大学院	教科・領域教育専攻　生活・健康系コース（技術・工業・情報）　1年	第22回徳島県50射選手権大会　一般の部　男子　準優勝
	弓道部　（男子）			第31回全国教育系大学弓道選手権大会　男子団体の部　第三位
後期	川口　綾美	大学院	教科・領域教育専攻 国際教育コース　2年	国際交流委員会の推薦による
	新延　貴弘	大学院	教科・領域教育専攻 国際教育コース　2年	国際交流委員会の推薦による
	飯野　耀平	大学院	教科・領域教育専攻 社会系コース　2年	平成27年度日本大学地理学会秋季学術大会大学院生口頭発表部門 最優秀賞受賞
	野崎　雅敬	大学院	高度学校教育実践専攻 教員養成特別コース　2年	第39回朝日アマ将棋名人戦四国大会　優勝
	園山　由華	大学院	教科・領域教育専攻　生活・健康系コース（保健体育）　2年	第34回徳島県大学剣道選手権眉山杯大会　女子個人戦　優勝
	金森　優太	大学院	教科・領域教育専攻　生活・健康系コース（保健体育）　1年	第61回徳島県バドミントン競技総合選手権大会　男子一部シングルス　優勝 第61回徳島県バドミントン競技総合選手権大会　男子一部ダブルス　優勝
	栗田　昌幸	大学院	教科・領域教育専攻　生活・健康系コース（技術・工業・情報）　1年	平成27年昇段祝賀納め射会　男子弐段以下の部　第三位
	庄野　雄介	大学院	教科・領域教育専攻　生活・健康系コース（技術・工業・情報）　1年	平成28年徳島県射初式　男子弐段以下の部　第二位
	永島　一隆	学　部	中学校教育専修 技術科教育コース　3年	平成28年徳島県射初式　男子弐段以下の部　第三位
	神笠　紘平	学　部	小学校教育専修 家庭科教育コース　4年	第40回四国地域自転車道路競走大会　U－23クラス　第4位 ヒルクライムチャレンジシリーズ2015高梁吹屋ふるさと大会　ロード男子A　16～30歳　優勝 ヒルクライムチャレンジシリーズ2015高梁吹屋ふるさと大会　男性総合　第3位 サイクルエンデューロin播磨中央公園　午前の部【オープン】　第2位 第20回西日本チャレンジサイクルロードレース大会　カテゴリー：A－U　第7位
	吹奏楽団“Cantabile”			第43回徳島県アンサンブルコンテスト　大学部門　金賞
	バトミントン部（男子）			第61回徳島県バドミントン競技総合選手権大会　男子一部団体　優勝
	弓道部（男子）			第9回全徳島弓道大会　団体一般男子の部　第三位

溝上賞

この溝上賞は，本学の第4代学長，名誉教授であります溝上 泰 氏の功績をたたえる顕彰事業として設けられたもので，溝上氏から寄贈された基金によって運営されており，上記の学生表彰被表彰者のうち特に顕著な功績をあげた者の中から一人又は1団体を表彰するものです。

平成27年度の受賞は，次の方に決定しました。

野　崎　雅　敬　　（学校教育研究科　教員養成特別コース　2年）

行事予定

平成28年度前期

	行事等	備考
前期 4月1日（金）～9月30日（金）	4月 1日（金） ～ 4月 7日（木） 春期休業	
	4月 8日（金） 入学式	
	4月 8日（金） ～ 4月 9日（土） 新入生オリエンテーション	4月21日（木）「履修登録」締切
	4月 9日（土） ～ 4月10日（日） 新入生合宿研修	※変更期間：
	4月11日（月） 授業開始	4月22日（金）～4月28日（木）
	6月14日（火） ～ 6月15日（水） 附属校園観察実習（3年）【附幼・小・中】	
	8月 1日（月） ～ 8月 5日（金） 前期試験期間	
	8月 1日（月） ～ 9月11日（日） 夏期休業（大学院）	
	8月 9日（火） ～ 8月21日（日） 夏期休業（学部）	
	8月22日（月） ～ 8月29日（月） 集中講義	
	8月25日（木） ～ 9月30日（金） 主免教育実習（長期履修生）【協力校】	←期間中の4週間
	8月29日（月） ～ 9月 9日（金） 保育所実習Ⅰ（2年）【鳴門市内保育所等】	
	8月29日（月） ～ 9月 9日（金） 保育所実習Ⅱ（4年）【鳴門市内保育所等】	
	9月 1日（木） ～ 9月28日（水） 主免教育実習（3年）（長期履修生）【附幼・小】	
	9月 5日（月） ～ 9月30日（金） 主免教育実習（3年）（長期履修生）【附中】	
	9月 5日（月） ～ 9月16日（金） 教員インターンシップ（4年）【附幼】	
	9月 1日（木） ～ 9月30日（金） 教員インターンシップ（4年）【鳴門市内小中学校】	←期間中の2週間
	9月 7日（水） ふれあい実習（観察実習）【学内】	
	9月12日（月） ふれあい実習（観察実習）【附幼・小・中】	
	9月13日（火） ／ 9月14日（水） ふれあい実習（交流実習Ⅰ）【鳴門市内幼稚園】	←どちらか1日
	9月21日（水） ～ 9月28日（水） ふれあい実習（交流実習Ⅱ）【附特別支援】	←期間中の1日
	9月12日（月） ～ 9月30日（金） 集中講義（大学院）	
	9月26日（月） ～ 9月27日（火） 2年次生合宿研修	

就職支援行事予定

※詳細は就職支援室で確認すること。

年月日（曜日）		時限	場所	行事名等	内容（予定）
平成28年1月～7月				教採対策特別ガイダンス	個人面接，模擬授業，場面指導，集団討論，集団面接等
4月	8日(金)	3	B 101	教員採用試験対策説明会（学内）	教員志望学生への指導・助言
		4	B 101	教採対策ガイダンス（実践編①）	（講）集団面接・模擬授業・個人面接 （筆）これまでの教育と教育改革，各種答申等Ⅰ
	中旬～5月下旬			教員採用試験説明会（教育委員会）	教員採用試験について
	中旬～7月			英語実技講習	英語実技
	13日(水)	4	B 201	教採対策ガイダンス（実践編②）	（筆）各種答申等Ⅱ，学習指導要領
	14日(木)	4	B 201		
	20日(水)	4	B 201	教採対策ガイダンス（実践編③）	（筆）特別活動，健康・安全教育，食育，生徒指導
	21日(木)	4	B 201		
	23日(土)		B 101	教員採用模擬試験　②	受験希望者（2回目）【有料】
	27日(水)	4	B 201	教採対策ガイダンス（実践編④）	（筆）教育法規
	28日(木)	4	B 201		
5月	～6月		D 103	教採実技ガイダンス（音楽）	音楽実技（弾き歌い）
	～6月			保育士模試	受験希望者　【有料】
	11日(水)	4	B 201	教採対策ガイダンス（実践編⑤）	（筆）指導案と学習指導，学習方法，カリキュラム
	12日(木)	4	B 201		
	18日(水)	4	B 201	教採対策ガイダンス（実践編⑥）	（筆）道徳教育，人権教育，特別支援教育
	19日(木)	4	B 201		
	21日(土)		B 201他	教採実技ガイダンス（集団②）	模擬集団討論（2回目）
	25日(水)	4	B 201	教採対策ガイダンス（実践編⑦）	（筆）総合的な学習，環境教育，情報教育，キャリア教育
	26日(木)	4	B 201		
6月	1日(水)	4	B 201	教採対策ガイダンス（実践編⑧）	（筆）教育原理・教育心理・教育史，一般教養
	2日(木)	4	B 201		
	8日(水)	4	B 201	教採対策ガイダンス（実践編⑨）	（筆）教育時事，一般時事，一般教養
	9日(木)	4	B 201		
	11日(土)		B 101他	教採実技ガイダンス（個人②）	模擬授業・個人面接（2回目）
	15日(水)	4	B 201	教採対策ガイダンス（実践編⑩）	（筆）適性検査（YG性格検査,内田クレペリン検査） （講）一次審査・二次審査の準備と今後の対策
	16日(木)	4	B 201		
	22日(水)	4	B 201 就職支援セミナー室	教採対策ガイダンス（直前編①）	兵庫県教員採用試験対策 神戸市教員採用試験対策 徳島県教員採用試験対策 その他自治体　未定
	23日(木)	4		教採対策ガイダンス（直前編②）	
	29日(水)	4		教採対策ガイダンス（直前編③）	
	30日(木)	4		教採対策ガイダンス（直前編④）	
7月	上旬			教採実技ガイダンス（美術）	図画実技（鉛筆素描）
	上旬～下旬		体育館・プール	教採実技ガイダンス（体育）	体育実技（ボール・器械運動，水泳）
	～9月上旬			教採二次対策ガイダンス	個人面接，模擬授業，場面指導，集団討論，集団面接等

編集後記

『学園だより』第73号をお届けします。

6年間の長きにわたり大学運営に携わられた田中雄三学長をはじめ退任・退職される先生方，本学の発展にご尽力いただき，誠にありがとうございました。先生方の益々のご健勝を祈念いたします。また学業・スポーツ等に励げみ卒業・修了を迎えた学生の皆さん，おめでとうございます。

本号により，教育や研究に熱心に取り組んでこられた先生方やスポーツや勉学に打ちこんでこられた学生の皆さんの様子が伝わることを願います。ご投稿いただきましたすべての方々に心から御礼申し上げます。（Y.H.）

編　集：鳴門教育大学学生支援委員会　　発　行：鳴門教育大学学生課
発行地：鳴門市鳴門町高島字中島748番地
☎ 088 (687) 6118　　http://www.naruto-u.ac.jp/